

1 7年度第2回金沢市介護保険運営協議会議事録要旨

1. 会議の期日及び場所

- (1) 平成17年10月6日(木)
- (2) 市役所7階全員協議会室

2. 出席委員

20人

3. 議事内容

- (1) 金沢市介護保険運営協議会が地域包括支援センター運営協議会及び地域密着型サービス運営委員会の役割を兼ね、その事務を取り扱うことについて

①地域包括支援センター運営協議会について

②地域密着型サービス運営委員会について

(事務局)

- ・ 金沢市介護保険運営協議会が地域包括支援センター運営協議会及び地域密着型サービス運営委員会の役割を兼ね、その事務を取り扱うことを説明。

〈①に関わることについて〉

(委員)

イ. 介護予防ということから始まると思うが、健康維持・増進についても含まれるのか。健康な人に対する事業はどうするのか。

ロ. 地域支援事業の対象となる5%に該当する人をどのように選び出すのか。

(事務局)

イ. 地域包括支援センターにおいて、事業の実施の対象となる方は、要支援・要介護状態に陥るおそれのある方で、国は、地域支援事業の対象者を高齢者の5%程度の方を想定している。本市では、約4,000の方が対象となり、地域包括支援センターの保健師等が介護予防ケアプランを策定し、それに基づいたプログラムを実施することにより要支援・要介護状態にならないようにするものである。

・ 現段階の情報で老健事業は、検診、老人健康手帳の交付事業は残るがその他の事業については、地域支援事業となるような形で国は考えている。

・ 健康な方については、健康推進部門で事業は実施する。地域支援事業は、状態を放置すると要介護状態となる方に対し実施するもので、健康な方全員に実施するものではない。

ロ. 基幹型お年寄り介護相談センターで作成した高齢者福祉保健台帳、要介護認定の申請のあった方のうち要支援・要介護認定を受けることができなかつた方、福祉健康センターの保健師が地域を回ったことからの把握、民生委員やまちぐるみ福祉活動推進員からの報告、検診事業結果などから総合的に調整して選び出すことができると考えている。

〈②に関わることについて〉

(委員)

イ. 地域密着型の対象となるサービス事業者の数は多くなると考えられる。そのサービスの内容、質の維持・向上を持続することは大変である。これらのために委員会を設置し、それを有意義に機能させるため分科会を作るのか。

ロ. サービスの維持・発展をどうするのか。

(事務局)

イ. 地域密着型サービスの特徴は、生活圏域においてサービス量を考えることとなり、計画の中でそのサービス量を決めていくことがある。その事業者の基準については、国が決めることとなるので、その基準を満たせば指定事業者となる。

・グループホームの指定事務は、現在、県所管となっているが、このサービスが地域密着型サービスに取り込まれることから、18年度から市所管となる。本市においては、施設が急増したことから、いったん止めて、需給関係を見定めた上で数を決め、昨年度、募集選考した。特養についても、一昨年、募集選考の形で決めた。公正なメンバーでの選考が必要な場合にあつては組織を作っていくことが必要と考えている。今後、このような形で行くか否かを運営協議会で検討していきたい。

ロ. サービスの維持・発展を鑑みて本市が独自で行っているものとしてグループホームの職員を対象とした研修会を開催している。また、ケアマネジャー対象の研修も近々開催を予定している。地域密着型サービスについても、実態を見ながら、方策について考えていきたい。

(委員)

イ. 事業者の指定審査について、事業者から指定の申請が随時あることを考えると、最終的には運営委員会で意見を聞くのか。

ロ. 審査事務を継続的にする必要がある。運営委員会に諮ることとなると思うが、具体的にどのように考えているのか。

(事務局)

- イ. 事務手続きの方策について運営委員会で検討していきたい。
- ロ. 本市において、かつて、グループホームの開設について、権限はないが、実施事業者の募集選考を行ったことがある。しかし、今後は、運営委員会の了解を得れば制度的に行うことができるようになった。
 - ・選考委員会を設け、選考業務を一任し、その結果を運営委員会で承認する方法も考えられる。

(委員)

- ・生活圏域の範囲をどの程度考えているのか。
- ・運営委員に民生委員を入れる必要性があると思うがいかがか。

(事務局)

- ・生活圏域については、9月議会で市長が答弁したとおり中学校区を基本に考え、区域割りについて今も検討している段階にある。
- ・本日も民生委員の会長、副会長も参加していただいているように運営委員会もそれでよいと考えている。

(委員)

- ・これから、運営委員会等が増えるため、既存のものも含めて役割分担の整理が必要である。

(会長)

- ・地域包括支援センター運営協議会としての役割を金沢市介護保険運営協議会が兼ねることとし、具体的な事務について第3期介護保険事業計画策定ワーキングを基本メンバーとした検討チームを設置し検討すること、また、地域密着型サービス運営委員会としての役割を金沢市介護保険運営協議会が兼ねることとし、具体的な協議を行うため金沢市介護保険運営協議会委員を基本メンバーとした検討チームを設置し検討するとの事務局からの提案でしたが事務局の提案どおり承認してよいか。

(異議なし)

(会長)

- ・異議がないようなので原案どおり承認し、地域密着型サービスの運営委員について自薦、他薦があれば事務局の方にご連絡願う。
会長、副会長において調整の上、委員を決定したいと思うがどうか。

(異議なし)

- ・委員の調整がついた後、皆様方に連絡する。

- (2) 長寿安心プラン 2006 の基本的視点と計画の見直しにかかる重点方針策定について
……………プラン策定ワーキングチーフから説明
介護保険市民フォーラムの開催について
……………ワーキングチーフ、委員から報告

〈長寿安心プラン 2006 の基本的視点と計画の見直しにかかる重点方針策定について〉

(委員)

- ・介護保険外のサービスとはどのようなものがあるのか。

(チーフ)

- ・今後については、インフォーマルで多様なサービスが考えられ、様々な検討が必要である。

(事務局)

- ・配食サービス、寝具乾燥・消毒サービス、理容・美容サービス、紙おむつの支給などがある。
- ・地域包括支援センターで行う包括的サービス、地域サロンのサービスなども該当する。

(委員)

- ・長寿安心プランは、老人保健福祉計画、介護保険事業計画をあわせたものであるから、介護保険外のサービスも重視し、総合的に組み立てていく必要がある。

(委員)

- イ. 介護予防を推進することは大切なことだと思う。介護予防事業に参加することが億劫、参加しにくい、参加してもなじめないなどの現状から参加しやすい方法を考えることは重要である。この参加について考えていただけないか。

ロ. 家を建てることを考えると介護保険料を払っている 40 歳の方から「多様な住まい」の普及の対象とすべきである。

(チーフ)

イ. サービスを利用しにくいことに様々な原因があるが、個別に考えるとケアマネジメントがその人に合うように作られ、実績を残すことによって地域に浸透していくと考えている。そのひとつの方法として、これまで作ってきたプランを評価することが必要である。仕掛けについては今後考えていく必要があると思う。

ロ. 第 2 号被保険者にも関わってくる問題だと思う。

(委員)

イ. 介護保険法制度改正の視点を加えたのは、この点から基本的視点を確認するためとしてよいか。

ロ. 「第 3 期介護保険事業計画の策定にあたって国の基本的な考え方」の資料は、基本プラン策定にあたり参考として示したのか。

(事務局)

イ. そう考えている。

ロ. 国の基本的な考え方をふまえながらプラン策定を考えていく必要があることから、参考としてお示しした。

(委員)

- ・医療との連携で、定期健康診断において脳に関わる項目がない。認知症の疑いのある方が自ら医療機関に掛かることはないと思うことから、チェックシートを使うなどして、医療に掛かる機会を作ることが必要だと思う。検診を行っている担当部署で実施できないか。

(事務局)

- ・本市において実施することは、まだ考えていない。金沢市医師会の見解は。

(委員)

- ・チェックシートを使う検診を行うことは難しい。医療機関にかかる人が少ないとのことだが、医師会では増えていると考えている。かかりつけ医で診てもらうことが重要であり、受診しやすい体制を作ることは必要である。疑いがあれば、早期に検査などをして診断することは可能である。

〈介護保険市民フォーラムの開催について〉

(プラン策定ワーキングチーフ報告)

◆第1日目 8月27日〈土〉：金沢市泉野図書館 13時30分～16時開催◆

○会場からの意見、要望事項

介護予防は特に大事であり、推進して欲しい、居住費・食費の見直しについて負担するのはやむを得ないが施設によって差が出ないようにして欲しいなどの意見があった。

○居宅介護支援部会からの要望(3回に共通)

緊急対応型のホームヘルプサービスの確保、緊急時のショートステイの受け入れ態勢の確保、医療依存度の高い方については、たとえば市立病院にショートステイ用のベッドの確保などの提案があった。

○フォーラムの開催3回を通して、参加した市民のアンケート結果について主な意見「長寿安心プラン2006」策定について

- ・国の制度をもとに市にできることを取り入れて市の特色を出して欲しい。
- ・介護予防に全力を挙げて欲しい。
- ・訪問介護のサービス内容を拡充して欲しい。
- ・予防介護、地域サロンにも送迎サービスを考えて欲しい。

地域包括支援センターについて

- ・もう少し狭い区域での活動が望まれる。
- ・人材の確保ができるか。

介護保険施設等の居住費・食費の見直しについて

- ・在宅とのバランスを考えると当然である。
- ・食は健康な老後のために大切な要因であるが、食費の給付をカットすることはおかしい。

(プラン策定ワーキング委員報告)

◆第2日目 8月30日〈火〉：金沢21世紀美術館 13時30分～16時開催◆

・会場からの意見、要望事項

新予防給付の導入に関し、主治医の機能を高め、介護保険制度をよく理解できる主治医やかかりつけ医を作っていくことが必要、金沢市の善隣館を今後、地域密着型サービスの機能を持って伸びていって欲しいなどの意見があった。

(プラン策定ワーキング委員報告)

◆第2日目 8月30日〈火〉：金沢21世紀美術館 18時30分～21時開催◆

- ・24時間介護に着目して議論を行った。
24時間介護は必要だが、「24時間、いつでも行けます」という状態を確保しているが、実際に要請を受けたことがない。また、「実際に利用しようとしても利用しにくい状況にある」などの意見があった。
- ・ケアマネジャーの対応について
ケアマネジャーの前職種や経験によって、客観性に乏しくケアプランに偏りが生じる傾向があり、研修等で改善する必要があるなどの意見があった。
- ・その他
住宅改修業者がお年寄りのいる世帯を訪問して、介護認定を受け住宅改修するよう活動しているとの話を聞くが、制度の趣旨に反しおかしいのではないかという意見があった。

(チーフ)

- ・今後、11月末から12月の頃を目処に、地域の公民館6～8カ所で小規模のフォーラムの開催し、市民からの意見を聞くことを考えている。

(委員)

- ・今後規模の大きい会場でフォーラム実施の際は、市民のより多い参加を得られるようPRをして欲しい。

(会長)

- ・ほかにはないので、「長寿安心プラン2006」の基本的視点と計画見直しにかかる重点方針について、提案されたものを基本とし、「長寿安心プラン2006」については、真砂委員をチーフとしたワーキングにおきまして、引き続き、検討することでいかがか。

(異議なし)

(会長)

- ・異議がないので、提案された基本的視点と計画見直しにかかる重点方針にしたがい、真砂委員をチーフとしたワーキングでのプラン策定を引き続きお願いします。

(3) 金沢市グループホーム介護実務者研修の開催について

苦情等専門部会の部会長から補足説明

(部会長)

- ・ 苦情等専門部会を毎月開き、市の窓口寄せられた苦情及び相談について検討を行っている。金沢市グループホーム介護実務者研修の開催についても、当部会の活動の一つで、委員が講義を行ったり、実習課題の整理等の研修時には、委員が参加しディスカッションに加わり、サービスの質の向上を目指している。このほか評価事業の実施や先般、認知症高齢者グループホームケアハンドブックを策定し、好評を得たところである。現時点で正式な苦情申し立てはなく、最近の苦情及び相談については、件数は減ってはいるが、内容が本人、家族、ケアマネジャーの3面関係の中で起きる問題、住宅改修に関するものなどに変わってきている。
- ・ これまでは、グループホーム向け、市民向けに苦情相談の事例集を作成してきたが、今後は、サービス事業の評価をしながら、よい事例に関するものを作っていきたいと考えている。

(会長)

- ・ 他にご意見がないようなので、以上で閉会する。長時間にわたり、様々な意見に対し感謝する。